

医療・福祉

身知

正契パ

医療法人大和会 西毛病院

障害のある方が安心して働ける職場環境を



職員の1日のスケジュール

障害のある職員6名のうち、知的障害のある佐藤さんの仕事の様子を紹介します。

- 9:00 ● 作業開始**
患者さん用フロアの清掃を行います。その後、患者さんの顔を拭くためのタオルの洗濯をして、従業員用のエプロンと一緒に外に干す作業などを行います。
- 11:45 ● 昼食**
休憩室で他の職員と一緒に談笑しながら昼食をとりまします。
- 12:45 ● 作業再開**
患者さんのおしぼりを用意し、全員に配る作業を行います。配る際には、患者さんにしっかりあいさつをするように心掛けています。その後、ゴミ捨て・食器洗浄・シュレッダー処理などを行います。
- 17:00 ● 退社**
業務内容を報告し、退社します。



■患者さんとのコミュニケーション
患者さんのリハビリの一環で談笑するなど、積極的にコミュニケーションを取っています。



■食器洗浄
患者さんの水分補給時に使用したコップを洗います。洗浄後は、所定の位置に戻します。

■タオルたたみ
患者さんの体を拭くためのタオルをたたみます。

職員の声



佐藤 好子さん
(入社：平成24年4月)

みんな優しいこの職場が好きです

・仕事内容

現在の仕事は、病棟内の環境整備、患者さんが使用したコップの洗浄、患者さんの体を拭くタオルたたみなどです。しかし、最初はどの業務も難しく、ミスをすることもありましたが、先輩方から優しく、丁寧に教えていただいたこともあり、現在では一人でも業務を行えるようになりました。

・仕事に対する思い

過去に一度だけ、不注意で患者さんに怒鳴られてしまい、退職を考えたことがあります。しかし、職場の皆さんの励ましもあり、頑張って仕事を続けようという気持ちを切り替えることができました。私はこの職場も、一緒に働いている皆さんのことも大好きなので、これからも一生懸命仕事を続けていきたいと思っています。

・就職を考えている障害のある方へ

障害があることで、様々な不安を抱えられていると思いますが、私が今の職場の皆さんに支えてもらっているように、どんな人にもきっと支えてくださる方がいると思います。もうダメだと諦めないで、頑張り続けることが大切だと思います。

事業内容

医療法人大和会は、昭和41年に西毛地域唯一の精神科病院として設立されました。昭和63年には精神に障害のある方の社会復帰への対応のため、県内初の「精神科デイケア」を開設。その後も介護老人保健施設や一般療養病棟等の増床を行い、西毛地域の精神医療・高齢者医療のために尽力しています。



障害のある職員の業務内容

- ・食器洗浄
- ・タオルたたみ
- ・環境整備業務



障害者雇用を検討される事業所のみなさまへ

障害のある方は必要とされる戦力であると事業所は認めています



本館6階病棟 主任
城田 和絵さん

できるだけ待つことの大切さ

障害者雇用を始めた当初は、障害のある職員に作業を任せてもできない、一度に複数の事を指示すると、混乱して動きが止まってしまうなど、現場から多くの戸惑いの声が上がりました。そのため、本人が自分のペースで働けるよう、一度の指示で一つの作業を任せるといったものに変更しました。その結果、徐々にできることが増え、現在は指示をしなくても一部の

作業は任せられるまでに成長しました。最初からできる人は障害のない方でもないと思います。できるようになるまで待つことが大切です。

職員の気持ちの変化

障害のある職員のできる作業が増えたことにより、現場職員も戦力として認めるようになりました。現在ではお休みの日には、「今日はいないの？困りますね」といった声上がるほど、現場に必要とされる存在になっています。

雇用に際しての取り組み

「雇用ができない」という考えを変える

人事担当者が障害者雇用を検討する際、できない理由はたくさん並べられると思います。しかし、「どうすれば障害のある方を雇用できるか」、「障害者雇用を実施するためにはどうしたらいいか」と、考える視点を変えることが、障害者雇用への第一歩を踏み出すことになると思います。



現場への事前の情報共有を行う

障害者雇用に前向きに取り組むためには、事業主の理解だけでなく、現場職員にも障害のある方のことを理解してもらい、事業所全体で障害のある職員を受け入れるための「土台」を作ることが大切です。そのためには、障害者雇用をはじめの前に、社内で講習会などを開き、障害特性や作業を指示をする際のポイントなどを、受け入れる職場全体で情報共有することが大切だと思います。



障害者就業・生活支援センターとの連携

障害者雇用を始めるに当たり、障害者就業・生活支援センターの支援を受けるのが良いと思います。センター職員に職場を訪問してもらい、現場の業務を確認してもらいながら、障害のある方のできる仕事を整理し、職場実習の内容や就業後の業務内容を相談して決めました。障害者雇用に係る不安は、支援機関の支援を受けることにより解消できると思います。



職員全員で「アンテナ」を張る

障害のある職員が現場の業務にまだ慣れていない段階では、作業が終わるたびに立ち止まって動かなくなってしまうことや、何をしてもいい困っても、職員に相談をすることができないために、孤立してしまうこともあります。孤立させないために、気付いた職員が声をかけるなど、いつでもサポートができるように、職員全員が障害のある職員に対し、常に「アンテナ」を張るよう心掛けています。



■事業所データ

設立 1966年(昭和41年)
常用労働者数 441人
代表者 院長 武田 滋利
所在地 〒370-2455
群馬県富岡市
神農原559-1

TEL:0274-62-3156
URL:www.seimou.org



■会社概要

昭和41年に医療法人大和会西毛病院を設立後、西毛地域を中心とし、医療の展開を続けています。

■障害のある職員の雇用状況

障害のある職員数 6人
うち重度障害のある職員数 2人

区分	身体	知的	精神
正社員	2人	1人	
契約社員		1人	
パート	1人	1人	
アルバイト			